

日本の淵源を学び
知を問い直す力を

国学院大学では、4月1日に大学院入学式、2日に学部・専攻科・別科の入学式が挙行され、2845人の新入生が新たな学究への道へと踏み出した。

学校法人国学院大学では、4月3日に任期満了に伴う理事改選が行われ14人を選出。8日の第1回理事会では理事の互選が行われ、佐柳正三理事長が選出された。2期目となる佐柳理事長は、学校法人を取り巻く社会環境の変化の中で「伝統に立つ改革、そして未来へ」というスローガンのもと、社会変化に対応できる人材の育成などを掲げた（1・2面に関連記事）。

国学院大学でも、4月から針本正行学長が2期目を迎え、新体制がスタート。1期目任期中には、コロナ禍が大学教育のあり方を変

化させ、AIなどテクノロジーの進歩が加速。針本学長は、未曾有の災禍に見舞われた3年間について「学生と教職員が新たな学びを追求したことで、学びのあり方が切り拓かれた」と語り、情報通信技術により時間や空間を選ばない学びの機会の提供が可能になったと振り返る。

同時に、AIの社会進出についてテクノロジーが生み出した答えを絶対視する危険性にも目を向け、「人が持つ素朴な疑問」や「それぞれの価値観で考える人間らしさ」の重要性を訴える。自らの知識や経験に基づき、誰かの答えに疑問を抱くことができる力―針本学長が「知を問い直す」と表現する力の育成と思い描く国学院大学の未来を聞いた。

6・7面に針本学長インタビュー、12面に入學式関連記事

みはるかすもの

新学期が始まると、にわかに電車も混雑が増す。新しく友人になったのであろう高校生たちが談笑する姿や、まだ着慣れないスーツに身を包む新社会人たちが仕事について話す姿をよく目にする▼彼らの姿を見ると、活気を分けてもらったような気分になる。3年前、緊急事態宣言が政府から発出された時のことを思い起こせば、喧騒に包まれる渋谷の街や学生が行きかうキャンパス―普段目にするあらゆる場所が静寂に包まれ、不気味さすら感じたものだ▼本学の2キャンパスでは、ひさしぶりにオリエンテーション期間中に部会・サークルによる新入生勧誘が対面で実施された。さまざまな団体の演舞の音や、新入生の勧誘に精を出す声など、新学期の風物詩といえる風景がようやく戻ってきた▼新入生たちは、さっそく各団体のブースで加入の相談をしたり、お互いの興味を持った団体について会話をしたりしていた。出会って数日の友人たちと会話を深める良いきっかけになっているのではない▼やはり大学は学生たちの活気があってこそだと改めて感じる。興味のある学問も、大学生活に期待するものも思い描く未来も人それぞれだ。だからこそ、出会う友人との関わりが自分の考えや他者との関わり方を成長させてくれる▼新入生はもちろん、在学生のみなさんにも、訪れた新たな出会いが素晴らしいものとなることを願いたい。

就任にあたって

このたび、任期満了に伴う改選により、再び要職を拝命することとなりました。学校法人国学院大学のさらなる発展のため、職責を果たすべく力の限り臨んでまいります。

3年におよぶコロナ禍は、社会に大きな困難と変化をもたらしました。この間、本法人ではコロナ禍の影響により、学びを断念する学生・生徒・園児らが一人でもあつてはならないという決意のもと、安心して学べる学園づくりに取り組んでまいりました。新型コロナウイルス感染症の脅威はまだまだ完全に去ってはおりませんが、5月8日

には政府により感染症法上の分類が5類へ移行されることから、一つの節目を迎えることとなります。

しかしながら、コロナ禍により一層加速したIT・AI技術などを用いたDXへの動きや出生率の大幅な低下などをはじめ、学校法人を取り巻く社会環境の変化は止まるところを知りません。取り組むべき課題が山積する中において、本法人では、大学をはじめ各校が令和4年度より新たな中期5カ年計画に取り組んでおります。法人の基本方針では、建学の精神に基づいた日本を究める教育研究の推進と共生社会を支える人材の育成に加え、教育研究環境の充実や法人組織の強化も掲げました。これにより、絶えず変化する社会に対応できる人材を養成し、社会に貢献する学校法人を目指してまいります。

昨秋、本法人は明治15年の皇典講究所創立から140周年を迎えました。「伝統に立つ改革、そして未来へ」というスローガンのもと、150周年のみならず、さらに先の未来へ向けた歩みを進めてまいります。

理事長 佐柳正三

卒業奉告祭・入学奉告祭を斎行



国学院大学は、3月18日に卒業奉告祭（斎主・山口耕司神職奉斎員〈総務部校友課主幹＝当時〉）を、4月1日に入学奉告祭（斎主・星野光樹神職奉斎員〈神道文化学部准教授〉）を渋谷キャンパス神前で斎行した。卒業奉告祭には、佐柳正三理事長、針本正行学長、役教職員らが参列。斎主の祝詞奏上では、法人傘下各校の4000人を超える卒業・修了・卒園者の今後の活躍を祈念した。入学奉告祭は、佐柳理事長、針本学長ら役教職員に加えて新入生代表も参列し、法人傘下各校の学生・生徒・園児らの勉学隆昌を祈念した＝写真。

第19期評議員が決定

学校法人国学院大学の第19期評議員が3月24日に開催された理事会で次の通り選出された（※は新任）。任期は令和9年3月31日まで。

- 【第21条第1項第1号】針本正行▷植村勝慶▷佐藤長門▷矢部健太郎▷菊田真司※▷星野広和▷黒崎浩行※▷太田直之※▷西村幸夫▷笹生衛▷仙北谷穂高※▷平野泰樹▷中村彰伸▷國清英明
- 【第21条第1項第2号】石川則夫▷石本道明※▷山西治男▷橋元秀一※▷宮内靖彦※▷石井研士▷結城孝治※
- 【第21条第1項第3号】島村昌利※▷中村大介▷長谷川顕子※▷山口輝幸※
- 【第21条第1項第4号】▷山寺三知▷杉田隆時※▷宇梶良昭▷高橋秀明▷笛田信一
- 【第21条第1項第5号】今井亮▷春日美奈子※▷河村基夫▷城所俊哉▷黒田眞子▷慶光院利致▷鈴木宏明▷関根俊▷武智浩二▷田畑善朗▷千野隆司▷中山高嶺▷廣井武司▷古屋真弘※▷間島誉史秀※▷宮野直生※▷吉井良昭▷吉田茂穂
- 【第21条第1項第6号】大隈暁子※▷花山院弘匡▷川福基之▷木村知躬▷九條道成※▷佐藤美穂▷佐柳正三▷清水祥彦※▷末岡熙章▷千家尊祐▷田中安比呂▷長曾我部延昭▷津田栄▷寺井種治※▷利根康教※▷西高辻信良▷舟橋雅美※▷松山文彦

令和5年度入学者数

4月1日現在、国学院大学の学部、大学院、専攻科、別科の入学者数は次の通り。

- ◎**大学院**◆博士前期課程▷文学研究科63人▷神道学・宗教学専攻14人▷文学専攻19人▷史学専攻30人▷法学研究科▷法律学専攻11人▷経済学研究科▷経済学専攻8人◆博士後期課程▷文学研究科25人▷神道学・宗教学専攻7人▷文学専攻12人▷史学専攻6人▷法学研究科▷法律学専攻0人▷経済学研究科▷経済学専攻1人
（大学院合計108人）
- ◎**学部**◆文学部725人▷哲学科68人▷史学科198人▷日本文学科264人▷中国文学科65人▷外国語文化学科130人◆法学部533人▷法律専攻425人▷法律専門職専攻48人▷政治専攻60人◆経済学部540人▷経済学科260人▷経営学科280人◆神道文化学部▷神道文化学科184人◆人間開発学部362人▷初等教育学科111人▷健康体育学科145人▷子ども支援学科106人◆観光まちづくり学部▷観光まちづくり学科359人
（学部合計2703人）
- ◎**専攻科**▷神道学専攻科神道学専攻28人
（専攻科合計28人）
- ◎**別科**▷神道専修Ⅰ類1人▷神道専修Ⅱ類5人
（別科合計6人）
- 【総計2845人】**

法人理事改選 佐柳理事長が2期目就任

任期満了に伴う学校法人国学院大学の理事改選が4月3日、第1回評議員会およびその後に行われた理事選任の会で行われた。選出された理事は次の通り（敬称略・五十音順、※は新任）。

◆理事▷石川則夫▷植村勝慶▷尾

近裕幸▷川福基之▷城所俊哉※▷木村知躬▷九條道成※▷國清英明※▷佐柳正三▷千家尊祐▷武智浩二▷津田栄▷舟橋雅美※▷吉田茂穂

第1回理事会は4月8日に開催され、理事長の互選などが行われた。その結果、理事長には佐柳正三氏が再選され、常務理事・理事長職務代理・代行者に武智浩二氏

が選ばれた。理事の任期は令和5年4月8日から令和9年4月7日までの4年間。このほか、委嘱された顧問、参与は次の通り（敬称略・五十音順、※は新任）。委嘱期間は令和9年3月31日まで。

◆顧問▷赤井益久▷今井寛人※▷大島居信史※▷大村秀司※▷鎌田薫▷久邇朝尊▷久邇邦昭▷坂口吉一※▷澄川喜一▷高城治延

※▷鷹司尚武▷田中恆清▷田村弘▷寺井種伯▷外山勝志▷中島精太郎※▷中村陽※▷武藤浩

◆参与▷岩下忠佳▷江口幸子▷岡野弘彦▷岡部定征▷鍵三夫※▷加藤隆久▷桑原恒明▷新富康央▷杉田秀清※▷千田史朗▷塙東男▷平野富康▷舟山亮※▷宮崎義敬▷吉田源彦※

学校法人国学院大学 包括連携協定を2法人と締結

学校法人国学院大学（東京都、理事長・佐柳正三）は、学校法人東京農業大学（東京都、理事長・大澤貫寿）お

よび学校法人加藤学園（静岡県、理事長・加藤正秀）とそれぞれ法人間の包括連携に関する協定を締結した。



■**学校法人東京農業大学**
学校法人東京農業大学との協定締結は3月29日に東京農業大学世田谷キャンパスで行われ、両法人の役教職員が参加した「写真上」。今回、包括連携協定を締結することで、両法人の設置する大学をはじめ各校の学生・生徒らや教職員との連携を通じて相互の発展を図ることを目的としている。今後、さまざまな連携・協力が図られる予定。

■**学校法人加藤学園**
3月22日には、学校法人加藤学園との包括連携協定が締結された。渋谷キャンパスで行われた締結式には、両法人の役教職員が出席し「写真下」。当日は、加藤学園の設置校で教壇に立つ院友教員も参加しており、母校である本学との交流に期待を込める声も上がった。同学園は幼稚園、小学校、中学校の他、2つの高校を設置しており、今後は両法人の設置する各校での連携・協力が図られる予定。



常務理事

武智 浩二 常務理事
(理事長職務代理・代行者)



理事長

佐柳 正三 理事長

新任理事



九條 道成 理事



國清 英明 理事



舟橋 雅美 理事



城所 俊哉 理事

学長特別賞 2学生を表彰



令和4年度学長特別賞の表彰式が3月19日に举行された卒業式に続いて行われた。同賞は学生部長賞受賞者（=本紙令和5年3月号で既報）の中から、特に優れた功績を挙げた団体・個人を顕彰するもの。卒業生が見守る中、針本正行学長から受賞者に賞状が贈られた。

受賞者は次の通り（学年は3月時点）。◆**個人**▷西松里紗（神文4）＝「国学院大学成績優秀者奨学制度」3年連続表彰（令和4、3、2年度成績最優秀者）▷鳥羽菜々美（経ネ4）＝同（令和4、3年度成績最優秀者・2年度成績優秀者）

全国保育士養成協議会
本学学生を表彰

全国保育士養成協議会が、保育士として活躍が期待される会員校の令和4年度卒業生を表彰し、本学からは尾田愛里さん（子支4＝当時）が選ばれた。3月19日の卒業証書授与に合わせ、塩谷香・人間開発学部教授から表彰状が手渡された。

院友神職会から寄付目録贈呈

卒業生神職によって組織される国学院大学院院友神職会から、研究振興などを目的に本学へ寄付が贈られた。3月22日に目録贈呈式が行われ、松山文彦・同会会長（昭43修・76期神専攻、東京大神宮宮司）から、針本正行学長に目録が手渡された。

針本学長は「教育・研究に資するよう、頂戴する。神職養成は本学の重要な事業の一つだ」と謝辞を述べた。

令和4年度卒業・修了生数が確定

令和4年度の卒業・修了生数が3月15日に確定した。所属別の人数は次の通り。

- ◎**大学院**◆博士前期課程修了◇文学研究科59人▷神道学・宗教学専攻10人▷文学専攻30人▷史学専攻19人◇法学研究科▷法律学専攻4人◇経済学研究科▷経済学専攻5人◆博士後期課程修了◇文学研究科5人▷神道学・宗教学専攻0人▷文学専攻2人▷史学専攻3人◇法学研究科▷法律学専攻0人◇経済学研究科▷経済学専攻0人◆博士後期課程所定単位修得退学◇文学研究科12人▷神道学・宗教学専攻2人▷文学専攻6人▷史学専攻4人◇法学研究科▷法律学専攻1人◇経済学研究科▷経済学専攻1人（大学院合計87人）
- ◎**学部**（9月卒業含む）◆文学部791人▷哲学科72人▷史学科222人▷日本文学科298人▷中国文学科64人▷外国語文化学科135人◆法学部▷法律学科481人▷法律専攻405人（3年時卒業3人を含む）▷法律専門職専攻32人（同2人を含む）▷政治専攻44人（同1人を含む）◆経済学部532人▷経済学科193人▷経済ネットワーク学科174人▷経営学科165人◆神道文化学部▷神道文化学科188人◆人間開発学部342人▷初等教育学科110人▷健康体育学科132人▷子ども支援学科100人（学部合計2334人）
- ◎**専攻科**▷神道学専攻科神道学専攻26人（専攻科合計26人）
- ◎**別科**▷神道専修Ⅰ類1人▷神道専修Ⅱ類2人（別科合計3人）**【総計2450人】**

3年ぶりに国歌・校歌の斉唱や雅楽・吹奏楽の演奏も実施された



式典は午前が法学部・人間開発学部、午後が経済学部・文学部・神道文化学部・専攻科・別科の3部構成で、針本学長が各学部の総代に卒業証書・学位記を、専攻科、別科修了生総代に修了証書を授与した。感染予防対策のため出席者を役教職員の一部と卒業生本人に限定し、卒業生の家族らはインターネットを通じ配信されたライブ動画で晴れ姿を見守った。

針本学長が式辞「**別掲**」を、国学院大学院友会の吉田茂穂会長が祝辞を述べ、法学部・一木孝之、人間開発学部・成田信子、経済学部・星野

広和、文学部・矢部健太郎、神道文化学部・西岡和彦の各学部長（当時）が「卒業生に贈る言葉」を添え、新しい世界へ船出する卒業生を祝した。また、1部では法学部・小谷野拓哉さん、2部では経済学部・石田駿さん（経）、3部では文学部・後藤佑梨さん（外文）がそれぞれ答辞を述べ、コロナ禍に苦しんだ4年間を振り返りつつ、新たなステージでの飛躍を誓った。式典終了後は各キャンパスに移動し、卒業証書・学位記、修了証書を一人一人受け取った。

全学応援団でチアリーダーとして活躍した宮本和嘉さん（神文）は「コロナ禍で練習や活動が制限され悔しい思いもしたが、『他人をサポートする喜び』を体得したことが進路決定にもつながった。最後に箱根駅伝の沿道応援が解禁されたのが良

針本学長式辞(要旨)
未来に生きる自分に
挑戦を

人工知能の時代が到来し、これまで人間が行ってきたことが機械などに代わり、人間の在り方、生き方が問われている。未曾有の災禍でデジタル化が加速し、社会構造・就業構造にも影響があり、その人の能力・資質が問われ、自らが選び取った「職」に「就く」という「就職型」

の人材が要請されているのだ。コロナ禍の3年間では、小惑星探査機「はやぶさ2」が小惑星「リュウグウ」から岩石を持ち帰る快挙もあった。宇宙開発にあまたの試行錯誤の歴史があるように、すぐに課題解決がなされたわけではなく、多くの人が過去の研究を踏まえながら問題を検証し、臨んできたのだ。夢が現実になるには偉大なる挑戦が必要だ。無限の可能性が広がっている卒業生の皆さんも、未来に生きる自分に挑んでみてはいかがか。



会場内ではマスクを着用する卒業生も多く見受けられた

大学院学位授与式
針本学長「それぞれの道で足跡を」



令和4年度の大学院学位授与式が3月18日、渋谷キャンパス常磐松ホールで行われ、佐柳正三理事長、針本正行学長、佐藤長門大学院委員長はじめ、役教職員と修了生らが出席した。

式典では、大学院博士後期課程修了生5人の氏名と論文が紹介され、針本学長が博士學位記を授与。次いで、博士後期課程所定単位修得退学者14人と博士前期課程修了生68人の氏名も読み上げられ、文学・経済学・法学研究科の各専攻の前期課程代表生に対して修了學位記が授与された。式辞に立った針本学長はAI技術の社会進出にふれ、「より一層、人間の営みや心の在り方が問われる。今こそ

人文社会学系の学問知が必要だ」とし「それぞれの道で足跡を残すことを期待する」と修了生らを激励した。佐藤委員長はバブル経済期から叫ばれた日本異質論にふれ、「日本は今日でも西洋の模倣だろうか。西洋モデルだけが正解だろうか。世界は日本の説明を求めているのではないか」と述べ、「皆さんが学んだ本学は、欧化主義全盛の時代に、日本を再発見・再評価しよう」と設立された。これからも日本を多角的に捉え、世界に発信してほしい」と修了生らに祝辞を送った。

修了生らを代表し、博士前期課程の仲田裕さん（経済学研究科）が「大学院の学びは実践的だった。自分の理解不足を思い知らされる経験でもあり、学問の奥深さを目の当たりにした」と振り返りつつ、「先生や同期などとの繋がりを通じ、学問の楽しさを共感できた。得た知識や経験を存分に発揮し、本学大学院の名に恥じぬよう誠心誠意努めたい」と答辞を述べた。

式典終了後、修了生らは専攻・コースごとに教室に分かれ學位記を受け取り、恩師や友人らと最後のひとときを過ごした。

大学記念賞 院友研究者4氏が受賞

国学院大学では、本学の研究教育に偉大な学績を刻んだ先人を記念し、後進の研究者を顕彰するために記念賞を設けている。令和4年度にまとめられ、刊行された研究実績の結果から、4つの記念賞が院友（卒業生）研究者に贈られた。

■西角井博士記念賞

祭祀・芸能に関する優れた研究を対象とする「西角井博士記念賞」が、櫻井弘人氏（昭56卒・89期文、元飯田市美術博物館学芸員、本学文学部兼任講師）に贈られた。表賞式は2月8日に渋谷キャンパスで行われ、針本正行学長から賞状と副賞が手渡された。同賞の授与は34年ぶ

り5人目。

この賞は、折口信夫に師事した高弟の一人で、神道学・民俗学・芸能史学などを広く研究した本学元教授の故西角井正慶博士（1900～71年。文学博士、歌人）を記念するため、ご遺族の意思により昭和46年に設けられた。

今回の受賞は、櫻井氏が30年

学院大学に進学した。さらに研究を深めたい」と述べた。

■樋口博士記念賞

以上にわたり取り組んでいる長野県飯田市の遠山霜月祭の研究をまとめた『遠山霜月祭の研究』（岩田書院、令和4年）が評価されたもの。国の重要無形民俗文化財でもある同祭の研究は、西角井博士が学術研究の組上に載せて以後、多くの研究者が取り組んできた。

審査委員の小川直之文学部教授（当時）は、「櫻井氏の研究は西角井博士の神楽研究を大きく前進させた。後進の研究者たちの目標となるもの」と評価した。

櫻井氏は「受賞は大変光栄だ。この祭りを研究したいと国

したほか、卒業後は教壇に立ち数多くの学芸員を育てた。

今回の受賞は、竹田氏の研究

をまとめた『都城藤原京の研究』（同成社、令和4年）が評価されたもの。審査員の谷口康浩・文学部教授は、「文化財の専門職員は、発掘以外にもさまざまな調整やデスクワークなど多くの仕事がある。その傍らで論文の執筆を続けた姿勢に頭が下がる思い。各地で同じように文化財発掘に取り組む多くの院友の励みにもなる」と竹田氏の研究への姿勢に敬意を表した。

竹田氏は「大学時代に友人の誘いで考古学の講義を受けたことが、この道を選んだきっかけ。30年も歩むとは想像もしなかった。この賞を激励と捉え、研究に励みたい」と語った。

■吉川博士記念賞

本学元教授の故吉川泰雄博士（1917～2000年。文学博士）を記念する「吉川博士記念賞」が、齋藤達哉氏（平9満退・105期博後文他、専修大学国際コミュニケーション学部教授）に贈られた。表彰式は3月20日に渋谷キャンパスで行われ、針本正行学長から賞状と副賞が手渡された。

この賞は、学長も務め本学の国語研究、国語教育の学統を築いた吉川博士を記念し、国語学に関する優秀な研究業績を単著として出版した国学院大学の学部・大学院の卒業生、修了者、本法人および国学院大学栃木学園の教職員へ学術奨励のために贈られる。

今回の受賞は、齋藤氏の研究をまとめた『国語仮名表記史の研究』（武蔵野書院、令和3年）が評価されたもの。選考委員を務めた小田勝・文学部教授は「日本語学では、音韻や文法に比べ文体や表記の研究は遅れている。その中で、齋藤氏は仮名に注目し文字、表記史の研究を行っており、仮名の可読性や機能について問いを設定した。表記史の新機軸となるものだ」と評した。

齋藤氏は「大学院生時代、博士は50歳まで研究を続け、成果になりそうなら挑戦するものと言われた。受賞を嬉しく思うとともに、身が引き締まる思いだ。今後も精進していきたい」と語った。

■加藤有次博士記念賞

国学院大学の学部・大学院の卒業生、修了者および教職員で、博物館学に関する優秀な研究業績を単著として出版した者または博物館活動に関して顕著な業績を成した者を対象とする「加藤有次博士記念賞」が、前川公秀氏（昭48卒・81期史、元佐倉市立美術館館長・元本学大学院客員教授）に贈られた。表彰式は3月20日に渋谷キャンパスで行われ、針本正行学長から賞状と副賞が手渡された。

この賞は、故加藤有次博士（1932～2003年。博士〈歴史学〉）の学績を顕彰し、後進の学術を奨励するために設けられた。加藤博士は故樋口清之博士の後を継ぎ、本学で博物館学の講義を担当し多くの学芸員を輩出。博物館学の確立と体系化を唱え、その発展に大きく寄与した。

今回の受賞は、前川氏の研究成果をまとめた『博物館の近代―朝鮮総督府時代の様相―』（雄山閣、令和4年）が評価されたもの。選考委員の内川隆志・研究開発推進機構学術資料センター長（教授）は、「日本統治下の朝鮮半島に存在した博物館の全貌を、網羅的にまとめた初の文献と言える。実証主義に基づき資料を重視した分析で、基礎文献となり得る大著」と評価した。

前川氏は「学生時代、加藤博士から薫陶を受けた。ようやく博士の教え子だと胸を張ることができると感慨深く語った。

4氏に学位を授与

国学院大学は、学位申請があった4氏に博士の学位を授与した。授与されたのは、櫻井弘人・元飯田市美術博物館学芸員、眞有澄香・浦和大学教授、川名禎・文学部兼任講師（当時）、竹田正則・奈良県橿原市世界遺産登録推進課副統括。学位授与式は櫻井氏が2月8日に、眞有氏、川名氏、竹田氏が3月15日に渋谷キャンパスで行われ、針本正行学長から学位記が送られた。学位論文は別表のとおり。

※敬称略。主査、副査の所属・職位は3月当時

氏名	学位	学位論文	主査	副査
川名 禎	博士(歴史学)	城下空間の再編と近世都市の形成原理	吉田 敏弘(文学部教授)	林 和生(文学部教授) 吉岡 孝治(文学部教授) 岡村(立正大学教授)
櫻井 弘人	博士(民俗学)	遠山霜月祭の研究	小川 直之(文学部教授)	大石 泰治(文学部教授) 鈴木 正崇(慶応義塾大学名誉教授)
竹田 正則	博士(歴史学)	都城藤原京の研究	青木 敬(文学部教授)	谷口 康浩(文学部教授) 茂木 雅博(茨城大学名誉教授) 小澤 毅(三重大学教授)
眞有 澄香	博士(文 学)	伝統としての〈ことば〉鏡花とみすゞ	石川 則夫(文学部教授)	井上 明芳(文学部教授) 鈴木 啓子(宇都宮大学教授)

若木育成会の支援受け
CP教室の機材を更新



令和5年度前期授業の開始を前に、渋谷・たまプラーザキャンパスのコンピュータ教室（C P 教室）に設置されているパソコン315台を更新した。

今回の機材更新は、在学生保証人（父母ら）の会である若木育成会からの支援を受け実施されたもの。C P 教室は授業で使用するほか、自習のためにも開放されており、学生たちが日々のレポート・課題などの作成や卒業論文の執筆などで利用している。

博物館『源氏物語』企画展
久我家嫁入本54帖を公開



国学院大学博物館の企画展「物語絵―嫁入本『源氏物語』全54帖公開―」が1月28日から3月26日まで開催された。

今回の企画展は、本学図書館が所蔵する久我家の嫁入り道具のひとつであったと推量される『源氏物語』を公開。前、後期で展示資料を入れ替え、美しい彩色絵が配された冊子や壮麗な装飾が施された装飾箱が惜しみなく披露された。宮中の女房装束である五衣唐衣裳も展示され、来館者は一つ一つの展示に足を止め、じっくりと鑑賞していた。

学部・大学院 休学制度を改正
休学理由問わず授業料減免が可能に

休学制度 新旧対照	改正後 (学部・大学院)		改正前 (学部)	
学費免除 対象の 休学理由	理由を問わない		病気療養など やむを得ない場合	
休学期間	1年間	前期または 後期	1年間	前期または 後期
授業料	全額免除	半額免除	全額免除	2分の1免除
施設 設備費			2分の1免除	4分の1免除
維持 運営費		全額免除	全額免除	全額免除
休学 在籍料	100,000円	50,000円	(新設)	

※大学院の改正前免除制度の詳細は「大学院学生便覧」で確認してください
※大学院の令和4年度以前入学者は、休学事由により従前どおりの免除措置を受けることができます。詳細は大学院事務課で確認してください

国学院大学では、以前より休学者の経済的負担軽減のために、学則により学部学生に対しては「休学者に対する授業料等減免規程」、大学院生に対しては「大学院休学者に対する授業料等減免規程」を定めて、病気療養や留学、特段の理由として認められた場合などやむを得ない理由での休学について休学期間に応じて授業料などの減免制度を運用してきた。

改正前の規程では、原則として休学中も学費の納入が必要であり、ボランティア活動や資格取得などを理由とした休学を希望した場合、授業料などの減免が困難であった。今回、学則を一部改正することで休学理由を問わず休学期間にかかる授業料などの減免を行い、休学在籍料を納める制度に改めた。新たな制度の施行は令和5年4月1日からで、在学している学部生および大学院生にも適用される。制度の詳細は、本学ホームページまたは担当事務室（教務課・たまプラーザ事務課・大学院事務課・経理課）で確認を。

新型コロナウイルス感染症
5月8日から出席基準変更

新型コロナウイルス感染症について、政府は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」での分類を、5月8日に現在の「第2類感染症相当」から季節性インフルエンザなどと同じく「第5類感染症」へ変更する。

学校での保健管理について定めた「学校保健安全法」での同感染症の扱いも「第一種学校感染症」から「第二種学校感染症」へと変更となる。これを受け、5月8日以降の授業については、新型コロナウイルスに罹患した場合のみ出席停止措置の対象となる。濃厚接触と特定された場合や感染の疑われる症状がある場合は出席停止措置の対象とならない。変更後の出席基準については別表のとおりとなる（4月15日時点）。出席停止期間については、今後の厚生労働省や文部科学省の決定により、変更となる場合がある。罹患した場合の対応については、
■感染予防策は継続を
規制緩和などは進んでいるが、本学では引き続き健康に留意し、「咳エチケット」「3密の回避」「必要に応じたマスクの着用」など感染防止策への取り組みを呼びかけている。



新型コロナウイルス感染症の出席基準について

新 旧	変更後	変更前
出席の停止対象	感染症に罹患した場合	①感染症に罹患した場合 ②濃厚接触者と特定された場合 ③感染の可能性が高い以下の症状がある場合 ●37.5度以上の発熱 ●明らかな風邪様症状
出席停止の期間	発症日を0日として7日間経過し、症状を緩和する薬の服用をしなくなり、発熱や風邪様症状の消失から24時間以上経過した後、8日目から対面授業に出席 ※出席停止期間は今後の厚生労働省、文部科学省などの決定により変更となる場合があります	①罹患した場合 発症日を0日として7日間経過し、症状を緩和する薬の服用をしなくなり、発熱や風邪様症状の消失から24時間以上経過した後、8日目から対面授業に出席 ②濃厚接触者と特定された場合 陽性者と隔離可能な場合は陽性者との最終接触日（陽性者との隔離が不可能な場合は陽性者療養終了日）を0日として5日間経過後、6日目から対面授業に出席 ③感染の可能性が高い症状がある場合 ●P C R検査の結果が陽性の場合は、「①罹患した場合」に従う ●P C R検査の結果が陰性の場合は、症状を緩和させる薬を服用しなくなり、症状が消失してから72時間以上経過した後、4日目から対面授業に出席
授業欠席の連絡	欠席する授業の担当教員に、K-SMAPY II のQ & A 機能を使用して直接連絡を行う	欠席する授業の担当教員に、K-SMAPY II のQ & A 機能を使用して直接連絡を行う
保健室への報告	大学ホームページ＝二次元コード＝より報告を行う	大学ホームページ＝二次元コード＝より報告を行う

1期目の総括と社会の現状 AIの進化に対する憂い

学長1期目（令和元～4年度）のうち3年間は、コロナ禍に教職員が一体となって対応してきました。特に令和2年の春は卒業式や入学式も行われず、約1ヶ月に及ぶ入構禁止期間も経験しました。人と人との交流や関わりから何かを獲得することは、人間にとって大切な学びですが、その大きな手段を奪われた期間でした。

しかし、こういった厳しい時代ほど、いままでできなかったことが開拓されます。本学ではオンライン授業を導入し、授業の進め方や資料、そして情報発信の中身までもが既存のあり方から変わっていききました。教職員と学生が一体となり、新しい学びのあり方を切り拓いた3年間だったといえます。一人ひとりの心の内にある眠れる力が発動した期間と見ることもできるでしょう。



この3年間で得たものは、授業の深化につながっています。対面とライブ配信を併用するハイフレックス型授業によって、自宅から受講でき

たり、オンデマンドの活用によって渋谷・たまプラーザキャンパス双方の学生が履修できる授業が増えました。また、大学院の社会人向けのオンラインリカレント講座は、海外から受講する方もおり、社会の幅広い方々に、時間と空間を選ばない学びの機会を提供できるようになりました。

世の中に絶対的な正解はありません。国語辞典を引けば、同じ語句でも辞書によってその説明は異なりま

目指す教育の姿 Society5.0に求められる人材とは

本学が目指すのは、そうした危うさを自覚し、常に疑問を持ち、問いを投げかけることができる人材の育成です。Society5.0に求められる人材とはそうした人物であると考えます。

そもそも大学の学びとは、教科書に記載された内容や先生の発言をそのまま受け入れるものではありません。単に学生が知識を伝達される場ではなく、伝達されたさまざまな事象・情報に対して学生が自分自身で問い直すという行為を通じて学びを深めていくことにあります。

問い直す力を身につけるためには、自分自身の知識や探究心を高めるとともに、その精神性自体を涵養することが求められます。既存の研究成果を絶対視することなく、恐れずに疑問を投げかけたとき、お互いがその行為を認め、他者の意見を尊重できるようなければなりません。

他者の意見を尊重する精神性を育むには、まず自分が何者かを知ることから始まります。本学の学則第1章第1条に「本学は神道精神に基づき人格を陶冶し」とあるように、神道精神をはじめ、本学が培ってきた日本研究の成果と学問的伝統から日本文化の理解を深めることは建学の精神に通じるものです。自分を深く理解するとは、自分が拠って立つ日本という国を深く理解することであり、日本文化の淵源を学ぶことで、他者の育ってきた文化や歴史も尊重することになります。

日本や日本文化を学び、自分とは何かを問いかけると、人とは何か、国とは何か、他の国にあり日本にないものは何かといったことに思いを馳せるようになります。社会には多様なバックグラウンドを持つ人が共存し、個人個人の価値観が補い合うことで社会が成り立っていることに気づき、その結果、相手の意見に耳を傾ける精神性にもたどり着くでしょう。それは共生社会につながる学びとも言えます。世界情勢が不安定さを増す昨今、本学の象徴でもある日本文化の淵源に迫る学びは、心豊かな共生社会の実現にも貢献できると考えています。

不断に知の 探究を続け

はりもと・まさゆき
昭和26年12月18日生まれ。71歳。
東京都出身。49年、国学院大学文学部文学科卒業。54年、同大学院文学研究科博士課程後期単位取得満期退学。博士（文学）。文学部長、副学長などを経て平成31年4月に学長に就任、今年より2期目を務める。専門は平安時代文学。

日本文化の

淵源を学ぶ 大学へ

令和5年度から2期目に突入した針本正行学長。新型コロナウイルス感染症の拡大と重なった1期目をどう総括し、また、これからの時代における大学の学びのあり方をどう捉えているのか。針本学長に聞いた。

学生が主体的に「日本文化」を 学んでいくカリキュラム

令和4年度より、本学の「5年後」を見据えた新たな「中期5カ年計画」がスタートしました。この中期計画では、「問い直す」「学び合う」「共に生きる」という教育目標を掲げました。大学とは、単に知識を伝達する場ではなく、目の前の知を問い直し、知を新たにすることができ、垣根を越えて存在することができ、根拠を越えて存在することができ、他者の考えに接したとき、否定をせず、なぜその考えに至ったのかを、学生だけでなく教職員も交えて熟慮する。こうして他者の意見を尊重する共生の精神が生まれていく。このような思いが3つの言葉に込められています。



他者を尊重・理解するには、まず自分を深く理解することから始まります。本学の特色である日本文化を学ぶことには、共生社会への重要な役割があると考えられています。一例として全学生が学ぶ「共通教育プログラム」の国学院科目群では「神道と文化」「日本文化を知る」といった日本文化の理解に直結する科目が設けられています。まずは日本文化における基礎的な知識を身につけて欲しいと思います。

この基礎的な知識を入りに、学生はその後の授業でより日本文化の淵源に迫っていくことができるカリ

キュラムを設計しています。仮に共通教育プログラムの中で「日本文化と水」の関連性について興味を持つたなら、2年次、3年次にこのテーマ・興味と密接な講義を自分で選び、段階的に学びを深めていくことが可能です。

大切なのは、学生の主体的な学びを呼び起こすことです。大学がレベルを敷くのではなく、学生自身が学ぶ中で素朴な疑問を抱き、自分で科目を選択しながらその答えを追究する。前述のように、基礎科目を履修する中で自分の興味が生まれ、それを手がかりに次のテーマを主体的に探していくことが理想です。

知を獲得した 「道程」を学べる環境がある

知が獲得されてきた現在に至るまでの「道程」に思いを致すことです。

テクノロジーで簡単に答えを探せるこの時代、学生が目の前の事象に疑問を持ったとしても、すぐにテクノロジーによってその答えが提示されてしまえば、考える機会さえ生まれません。苦労なく答えが出されることに甘え、今後同じ手段で答えを求めるという悪循環にもつながります。

ひとつの知を獲得するまでにはさまざまな道程があります。一度出た答えが覆されることも少なくありません。絶対的な正解はないのです。その道程を学生が学ぶと、目の前の知も絶対ではないと感じ、そこから主体的に問い直す力が養われると考

えています。

本学は日本の法制史など、この国で知が獲得されてきた道程を学ぶ授業が揃い、またそれを記した資料が蓄積されています。なぜこの研究がこの時代に行われ、どういったプロセスのもとに答えが出たのか。あるいはなぜそれが更新されたのか。日本において知が獲得されてきた道程を知る環境があります。

一方、既成の事実を新たな視点で分析することも必要です。その行為自体が「知を問い直す」ことにつながるからです。例として、本学の共通教育プログラムには「データ・サイエンス」の科目が含まれています。人文・社会科学系の本学がデータ・サイエンスをどう活かすのか。たとえば歴史資料にはさまざまな記

録が残されていますが、その記録が本当に意味するところは何か、感覚的な意味合いではなく、科学的に記録の内情を読み解くことができる力を養えば、新たな見解を示せるようになります。実証に基づく研究を伝統としてきた本学が取り組むことは自然な流れといえます。

私はつねつね、学生が社会に出たとき、本学を「母校」と思える大学にしたいと考えてきました。母校とは単純な出身大学という意味合いではなく、いまの自分を形成する重要な要素として本学があると感じてもらいたいことです。そのためには、大学で知識をただ受け止める学びを行うのではなく、目の前の知を疑い、自分から新しい知を発見する力を養いたい。中期5カ年計画では「知の創造 日本を学ぶ、未来をひらく」という大学の将来像を掲げています。ここで話した考え方やプログラムを推し進め、私たちは不断に知の探求をつづける研究教育機関の実現を目指していきます。

新任専任教職員紹介

今年度4月、本学に着任した専任の教職員21人のプロフィールを紹介する。丸数字は①略歴②抱負。

文学部

◆准教授

岡本源太（おかもと・げんた）
①京都大学大学院人間・環境学研究科修了。博士（人間・環境学）。岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授などを経て現職。
②専門は美学、特に西洋ルネサンスおよび現代の哲学と芸術です。哲学も芸術も、たえず思考と想像力の限界に挑戦しつつ連綿と続いてきた人類の営みです。その途方もない広がりと一緒に体験できるのを楽しみにしています。

◆川名禎

（かわな・ただし）
①国学院大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得退学。博士（歴史学）。本学兼任講師などを経て現職。
②専門は歴史地理学、近世都市とりわけ城下町の景観や空間構造の研究をしています。学生の皆さんには、授業を通じて地理学的なものの見方や考え方を学ぶことで、日々の生活をより豊かで楽しいものにしていくって貰いたいと思います。

大楽和正（だいらく・かずまさ）
①国学院大学大学院文学研究科博士課程前期修了。新潟県立歴史博物館主任研究員などを経て現職。
②民俗学が専門です。有形・無形の民俗文化財の調査研究や展示活動に携わってきました。博物館での経験を生かして、民俗学の魅力や面白さを学生の皆さんに伝えられるよう努めていきたいと思っています。

◆助手
伊東俊祐（いとう・しゅんすけ）
①国学院大学大学院博士課程後期単位修得後退学。独立行政法人国立美術館本部などを経て現職。
②先天性の全ろうです。芸術実践論、博物館学、ミュージアムスタディーズを専門に、多様化する社会のプラットフォームとなるミュージアムや文化芸術の可能性についての学際研究を進めています。また当事者としての立場からも、社会のインクルージョンにも微力ながら貢献してゆきたいと思っています。

経済学部

◆教授（特別専任）

原省三（はら・しょうぞう）
①早稲田大学法学部卒業。東京国税局入局後、国税庁、国税不服審判所、税務大学校などの勤務を経て現職。
②37年間にわたり、国税職員として、法人税や国際課税に関する調査・審理事務に従事してきました。これまでの経験を基に、租税の意義やあり方について、学生のみなさんに関心を持ってもらえるよう努めたいと思っています。

法学部

◆准教授

山下裕樹（やました・ひろき）
①関西大学大学院法学研究科博士課程後期修了。博士（法

学）。神戸学院大学法学部講師を経て現職。
②専門は刑法です。法学的知識の習得だけでなく、法律学特有の問題を発見する力・考え方を養うことを通じて人材を育成していきたいと思っています。

人間開発学部

◆准教授

三田沙織（みた・さおり）
①筑波大学大学院人間総合科学研究科体育科学専攻博士後期課程単位取得満期退学。国学院大学栃木短期大学専任講師、琉球大学准教授などを経て現職。
②専門は体育科教育学です。現職の教員の方々と連携しながら体育の授業づくりについて学んでいます。学生の皆さんとの関わりを大切にしながら、教員養成に貢献できるよう精進して参ります。

◆助手
青柳秀幸（あおやぎ・ひでゆき）
①国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科修士課程修了。修士（体育科学）。同大学院博士課程在学中。
②オリンピック・パラリンピックムーブメントにおける教育的な価値や、それを通じた人間形成に着目し、歴史的なアプローチや概念整理、実践を試みています。建学の精神や人間開発学に基づいた充実した学びを継承・お届けできるよう、精一杯努力いたします。

◆教授
吉見俊哉（よしみ・しゅんや）
①東京大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。東京大学大学院情報学環教授等を経て現職。
②社会学、カルチュラル・スタディーズ、メディア論、都市論、アメリカ論、戦後論、大学論等の分野で仕事をしてきましたが、そのすべてで〈都市〉をテーマにしてきました。ですので、人生の第4コーナーは再び〈都市=まち〉に深く入ります。渋谷とたまプラーザの両キャンパスで、まちの風景の中を同僚や学生の皆様と歩き回りたいと願っています。

◆助手
中川雄大（なかがわ・ゆうだい）
①東京大学大学院学際情報学府博士課程修了。博士（学際情報学）。
②社会学、都市研究を専門にしています。これまでは戦前期の日本社会においていかにして都市計画が導入されてきたのかを、コミュニケーションに着目して検討してきました。今年度から学生の皆さんとまちづくりに携わることができるのを楽しみにしています。
圓山王国（まるやま・おうこく）
①東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了。修士（工学）。同専攻博士課程在学中。現職に至る。
②専門は都市計画と多文化共生。団地にお

ける多文化共生について、研究と実践の両方から探究しています。学生の皆さんとのコミュニケーションも大切に、楽しく充実した学びを提供できるよう、サポートしてまいります。
山島有喜（やまし・ゆうき）
①東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。博士（農学）。
②専門は風景計画学、造園学です。学部から修士、博士にいたるまで屋上緑化について研究し、都市の風景としての意義と価値を世に問うてきました。地域の核となる場や空間をどのように見出し観光まちづくりに活かしていくか、学生の皆さんと議論し、ともに学んでいきたいと思っています。

教育開発推進機構

◆准教授

柳瀬弘美（やなせ・ひろみ）
①㈱日航ビジネス退職後、千葉大学大学院人文社会科学研究科にて修士（学術）取得。名古屋外国語大学専任講師を経て現職。
②成田空港で会社員として十数年勤めたのち、大学院に入り学位取得後、名古屋外国語大学で英語講師として教壇に立ちました。教員としては回り道ですが、会社員としての経験も併せ今後社会人となる国学院大学の学生が、英語の能力を駆使し、より可能性を広げられるよう支援したいと思っています。

◆助教（特別専任）
内村慶士（うちむら・やすし）
①東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース博士課程修了。日本学術振興会特別研究員（DC2→PD）。資格：臨床心理士・公認心理師。
②心理職・研究者・教員という3つのバックグラウンドを生かして、学生と先生方の橋渡しや、勉学に限らない主体的な学びのお手伝いができればと思っています。先生方には、学生の方のサポートをお願いさせていただく機会もあることと存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

大学事務局

◆書記（陸上競技部コーチ）

山口祥太（やまぐち・しょうた）
①平成20年3月国学院大学経済学部卒業。富士通陸上競技部を経て現職。
②母校である国学院大学で職員として働けることを大変光栄に思います。約20年間打ち込んできた陸上競技、駅伝を通して得た経験を最大限活かし、本学の更なる発展に向けて尽力して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

◆総務部総務課（試用期間）

福田弘毅（ふくだ・こうき）
①令和5年3月国学院大学神道文化学部卒業。
②母校である国学院大学に奉職させて頂けることを大変光栄に存じます。神道を学んだ者として、建学の

精神である「神道精神」を時代に即した形で体現できる職員になりたいと思っています。大学のさらなる発展に力を尽くして参りたく存じますので、何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

◆総合企画部入学課（試用期間）

近藤和花（こんどう・のどか）
①令和5年3月立正大学心理学部卒業。
②国学院大学職員としての一步を踏み出せることを誇りに思うと同時に、大変身の引き締まる思いです。国学院の歴史や伝統、学生の学びや生活を守り抜く職員になれるよう、前向きな姿勢で日々精進していく所存です。何事にも丁寧に取り組んでまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

◆教学事務部教務課（試用期間）

佐藤勇太（さとう・ゆうた）
①令和5年3月明治大学文学部卒業。
②国学院大学という歴史と伝統のある学校で職員として奉職できることを大変光栄に存じます。学生時代に培った経験に加え、新しいことにも挑戦を続け、学生や大学に還元できるよう精進して参ります。初心を忘れず、日々誠実に仕事に取り組んで参りますのでご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

◆学生事務部学生生活課（試用期間）

宮本和嘉（みやもと・わか）
①令和5年3月国学院大学神道文化学部卒業。
②学生時代お世話になった本学で働けること大変嬉しく思います。応援団チアで培った笑顔、応援する気持ちを忘れずに職員として学生一人一人と真摯に向き合い学生に安心してもらえる職員を目指します。先輩方から多くのことを学び日々精進して参りますので御指導御鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。

◆学生事務部キャリアサポート課（試用期間）

相川環（あいかわ・たまき）
①令和5年3月慶応義塾大学文学部卒業。
②歴史と伝統のある国学院大学で職員として働けることを非常に嬉しく思っています。学生を支える仕事に就くことを誇りに思い、熱意と真摯さを持って業務に取り組む所存です。今後も自己研鑽を怠らず成長を続けますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

◆研究開発推進機構事務課（試用期間）

東海林由光（しょうじ・よしみつ）
①令和5年3月日本大学経済学部卒業。
②伝統ある国学院大学の職員として働けることを、大変嬉しく思っています。学生時代に培った相手の立場に立つて行動する力を生かし、関わる方々全員に信頼される職員を目指します。至らない点も多くあると思いますが、一日でも早く皆さまのお力になれるように日々精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

町田助教 池田晶子記念賞受賞

町田樹・人間開発学部助教が「第16回（池田晶子記念）わたくし、つまり



Nobody賞」を受賞し、3月29日に日本出版クラブで表彰式が行われた。

同賞は、哲学エッセイを確立した文筆家の故池田晶子氏を記念し、考える日本語の美しさや表現者としての姿勢、可能性に挑んだ個人を顕彰するもの。町田助教は、『若きアスリートへの手紙―〈競技する身体〉の哲学』（2022年、山と溪谷社）など著書や論文の執筆に加え、振付家としての活動や身体表現に関する著作権法への研究など幅広く身体表現とその美を追求する姿勢が評価された。

町田助教は記念講演で「既にこの世には存在しない著者とも、過去の著作を通じて対話を行うことができる。本が持つ時空間を超える力を信じ、明日を生きるア

スリートや表現者の良き対話の相手となれるような言葉を、これからも真摯に紡いでいきたい」と語った=写真。

高校生向けに文学塾 3年ぶりに対面でも開講

国学院大学文学塾が3月25日に渋谷キャンパスで開講された。文学塾は高校生のための学びの場として本学文学部が主催しており、文学部の教員たちが専門性の高い内容の講義を行うもの。今年度は3年ぶりに対面での実施を再開。大学での授業と同じく90分間の講義が行われ、全6講義に高校生や高校教員など、



延べ265人が参加した。
第6期となる今回は「文学部の学びの諸相―一時空を超える翻訳・解釈―」が統一テーマ。教員たちがそれぞれテーマを掲げて講義を行い、参加者たちも熱心にメモを取りながら講義に参加していた。

令和5年度 予算成立

資金収支予算書 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位: 百万円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	前年度予算	増減	科目	予算	前年度予算	増減
学生生徒等納付金収入	14,483	14,214	269	人件費支出	10,311	10,455	△ 144
手数料収入	941	697	244	教育研究経費支出	5,053	4,539	514
寄付金収入	351	287	64	管理経費支出	1,426	1,362	64
補助金収入	2,802	2,828	△ 26	借入金等利息支出	7	9	△ 2
資産売却収入	0	0	0	借入金等返済支出	545	1,245	△ 700
付随事業・収益事業収入	141	170	△ 29	施設関係支出	1,038	237	801
受取利息・配当金収入	175	180	△ 5	設備関係支出	335	342	△ 7
雑収入	270	535	△ 265	資産運用支出	2,205	2,657	△ 452
借入金等収入	501	501	0	その他の支出	370	412	△ 42
前受金収入	2,689	2,913	△ 224	予備費	294	309	△ 15
その他の収入	1,930	1,517	413	資金支出調整勘定	△ 300	△ 325	25
資金収入調整勘定	△ 3,299	△ 3,356	57	当年度支出合計	21,284	21,242	42
当年度収入合計	20,984	20,486	498	翌年度繰越支払資金	8,549	8,849	△ 300
前年度繰越支払資金	8,849	9,605	△ 756				
収入の部合計	29,833	30,091	△ 258	支出の部合計	29,833	30,091	△ 258

事業活動収支予算書 令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位: 百万円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	前年度予算	増減	科目	予算	前年度予算	増減
学生生徒等納付金	14,483	14,214	269	資産売却差額	0	0	0
手数料	941	697	244	雑収入	0	0	0
寄付金	319	283	36	その他の特別収入	52	31	21
経常費等補助金	2,792	2,810	△ 18	特別収入計	52	31	21
付随事業収入	141	169	△ 28	資産処分差額	0	3	△ 3
雑収入	270	535	△ 265	その他の特別支出	0	0	0
教育活動収入計	18,946	18,708	238	特別支出計	0	3	△ 3
人件費	10,339	10,473	△ 134	特別収支差額	52	28	24
教育研究経費	6,689	6,495	194	[予備費]	294	309	△ 15
管理経費	1,534	1,482	52	基本金組入前当年度収支差額	310	148	162
教育活動支出計	18,562	18,450	112	基本金組入額合計※	△ 1,664	△ 1,525	△ 139
教育活動収支差額	384	258	126	当年度収支差額	△ 1,354	△ 1,377	23
受取利息・配当金	175	180	△ 5	前年度繰越収支差額	△ 10,695	△ 9,356	
その他の教育活動外収入	0	0	0	基本金取崩額	0	2	
教育活動外収入計	175	180	△ 5	翌年度繰越収支差額	△ 12,049	△ 10,731	
借入金等利息	7	9	△ 2	(参考)			
その他の教育活動外支出	0	0	0	事業活動収入計	19,173	18,920	253
教育活動外支出計	7	9	△ 2	事業活動支出計	18,863	18,772	91
教育活動外収支差額	168	171	△ 3				
経常収支差額	552	429	123				

※第1号基本金 13億6400万円
教育の質向上のために取得した固定資産の価格
第2号基本金 3億円
教育の質向上のために将来取得する固定資産取得に充てるもの

令和5年度学校法人国学院大学予算が、3月24日の理事会・評議員会で承認、成立した。

資金収支予算は、会計年度中のすべての収入および支出の内容と支払資金の期末を明らかにすることを目的としている。

令和5年度予算総額は29億8330万円で、前年度予算額から2億5800万円の減額となる見込みである。

大学部門での観光まちづくり学部の学年進行などにより、収入面では学生生徒等納付金収入が2億6900万円の増額となる一方、支出面では人件費支出が1億4400万円の減額となる見込みである。

事業活動収支予算は、①教育活動②教育活動以外の経常的な活動③前記以外の活動、以上3つの事業活動収支の内容を明らかにするとともに、当該会

計年度において基本金に組み入れる額を控除した、当該会計年度の諸活動に対応するすべての事業活動収入および事業活動支出の均衡の状態を明らかにすることを目的としている。

本予算においては、基本金組入前収支差額は3億1000万円の収入超過となる見込みである。

詳細は、学校法人国学院大学ホームページに掲載している。

法人の主な役職員人事

学校法人国学院大学の主な役職員人事は次の通り。

退任

◎国学院高等学校▽校長▽津田栄▽教頭▽佐藤誠博
(以上、令和5年3月31日付)

新任

◎国学院高等学校▽校長▽中村彰伸▽副校長▽杉田隆時
◎国学院大学久我山中学・高等学校▽教頭▽笠井誠司▽三戸治彦
◎法人参事・法人事務局長▽中村大介
(国学院大学総務部長)
(以上、令和5年4月1日付)

再任・異動等

◎国学院大学北海道短期大学部学長▽平野泰樹
◎国学院高等学校▽副校長▽野島功▽教頭▽喜多一雄▽飯島利一
◎国学院大学久我山中学・高等学校▽校長▽國清英明▽副校長▽高橋秀明
◎国学院大学附属幼稚園園長▽森野ゆかり
◎国学院幼稚園園長▽中村佳代子
◎法人主事・法人事務局部長▽滝田忠之
(大学総合企画部長)▽長谷川顕子
(大学教務事務部長)▽長谷川顕子
(以上、令和5年4月1日付)
◎法人事務局長を解く▽城所俊哉(法人参事)
(令和5年3月31日付)

大学の主な役職員人事

国学院大学の主な役職員人事は次の通り(令和5年4月1日付)。

役職者 ※は再任

◎学長▽針本正行※
◎副学長(学長職務代理者)▽石川則夫※
◎副学長▽植村勝慶※▽太田直之
(以上任期4年)
◎大学院▽委員長▽佐藤長門※▽代表幹事▽石本道明▽文学研究科▽委員長▽佐藤長門※▽幹事▽石本道明▽法学研究科▽委員長▽一木孝之▽幹事▽高橋信行※▽経済学研究科▽委員長▽細井長▽幹事▽細谷圭
(以上任期2年)

◎学部▽文学部▽学部長▽矢部健太郎※▽副学部長▽谷口雅博※▽法学部▽学部長▽河田真司▽副学部長▽佐藤秀勝▽経済学部▽学部長▽星野広和※▽副学部長▽中馬祥子▽神道文学部▽学部長▽黒崎浩行▽副学部長▽松本久史▽人間開発学部▽学部長▽太田直之▽副学部長▽結城孝治▽観光まちづくり学部▽学部長▽西村幸夫(任期中)▽副学部長▽梅川智也(任期中)
(以上任期2年)
◎研究開発推進機構▽機構長▽笹生衛

※研究開発推進センター長▽松本久史※▽日本文化研究所長▽平藤喜久子※▽学術資料センター長▽内川隆志※▽校史・学術資産研究センター長▽松本久史(国学院大学博物館長▽笹生衛※)
(以上任期2年)

◎教育開発推進機構▽機構長▽石川則夫※▽副機構長▽榑剛▽教育開発センター長▽石川則夫※▽共通教育センター長▽星野光樹▽教職センター長▽高山実佐▽英語教育センター長▽土肥充
(以上任期2年)

◎専攻科長▽石井研士※
◎別科長▽藤本頼生
◎学生部長▽根岸毅宏
◎教務部長▽菅浩一
◎入学部長▽高屋聖一
◎就職部長▽中曽根玲子
◎国際交流推進部長▽田原裕子
◎たまプラーザキャンパス長▽太田直之
◎情報センター長▽寺本貴啓
◎図書館長▽遠藤潤※
(以上任期2年)

昇格異動等

◎文学部▽教授▽中村正明▽穴戸節太郎▽岩橋清美▽准教授▽荒木優也
◎法学部▽准教授▽川村尚子
◎経済学部▽教授▽櫻井潤
◎神道文化学部▽准教授▽鈴木聡子
◎人間開発学部▽准教授▽小林唯哉
◎研究開発推進機構▽教授▽大東敬明▽深澤太郎
(大学事務局)

大学事務局

◎大学事務局長▽仙北谷穂高(教学事務部長)
◎総務部長▽山口輝幸(学術メディアセンター)事務部長▽研究開発推進機構▽図書館担当部長▽次長▽総務担当(総務課長兼務)▽安西晴美(同課長)▽人事担当(人事課長兼務)▽小林博毅(同課長)
◎総合企画部▽部長▽後藤匠(同次長)▽課長▽入學課▽萩慎太郎(同課長補佐)
◎財務部▽次長▽経理担当(経理課長兼務)▽村越美里(同課長)
◎教学事務部▽次長(教務課長兼務)▽松本忠和(同課長)▽課長▽大学院事務課▽本浪義武(学術メディアセンター)事務部長▽研究開発推進機構事務課主幹

◎国際交流事務部▽部長▽石山昭彦(同次長)▽次長(国際交流課長兼務)▽茂木奈津子(同課長)
◎学術メディアセンター事務部▽次長▽研究開発推進機構担当(研究開発推進機構事務課長兼務)▽飯塚陽子(同課長)▽たまプラーザ図書館担当(図書館事務課長)▽たまプラーザ担当(兼務)▽安達匠(同課長)▽担当)▽課長▽図書館事務課(資

料室担当兼務)▽生形恭子(同課長補佐)

◎たまプラーザ事務部▽課長▽たまプラーザ事務課▽佐藤友宏(同課長補佐)▽広瀬健一(学生事務部キャリアサポート課長補佐)

移籍

◎文学部▽准教授▽佐川蘭子▽鈴木崇義
◎神道文化学部▽准教授▽小濱歩
◎研究開発推進機構▽准教授▽新井大祐
(以上、教育開発推進機構から)
◎研究開発推進機構▽准教授▽齊藤智朗(神道文化学部から)

任用形態の変更

◎文学部▽准教授▽服部比呂美(准教授・特別専任)

新任(任期延長含む)

◎文学部▽教授(特別専任)▽宮内克浩▽准教授▽岡本源太▽川名慎▽大楽和正▽助手▽伊東俊祐
◎法学部▽准教授▽山下裕樹
◎経済学部▽教授(特別専任)▽原省三
◎人間開発学部▽准教授▽三田沙織▽助手▽青柳秀幸
◎人間開発学部▽教育実践総合センター▽客員教授▽井田均▽岩城真佐子
◎観光まちづくり学部▽教授▽吉見俊哉▽助手▽中川雄大▽圓山王国▽山鳥有喜
◎教育開発推進機構▽准教授▽柳瀬弘美▽助教(特別専任)▽内村慶士
◎客員教授▽嵐山光三郎▽岩下尚史▽北澤豪▽久保田りり▽後藤靖子▽さだまさし▽東儀秀樹▽平林岳▽松平定知
(客員教授任期1年)

大学事務局

◎専任▽総務部総務課▽福田弘毅▽総合企画部入學課▽近藤和花▽教学事務部教務課▽佐藤勇太▽学生事務部学生生活課▽宮本和嘉▽学生事務部キャリアサポート課▽相川環▽学術メディアセンター事務部▽研究開発推進機構事務課▽東海林由光(以上、試用期間)▽陸上競技部コーチ▽山口祥太
◎嘱託▽法人事務局▽吉原祐子▽総務部▽人事課▽柴原美智子▽校友課▽山口耕司▽学生事務部▽学生生活課(保健室)▽大森ユカ▽学生生活課(学生相談室)▽篠原侑希▽学術メディアセンター事務部▽図書館事務課(経済学部資料室)▽倉井里沙▽硬式野球部コーチ▽長岡哲司▽陸上競技部コーチ▽鈴木涼太

退職

◎文学部▽教授▽井上明芳
(令和5年3月31日付)

在学生アンケート実施

コロナ禍の影響緩和も脱マスクは慎重

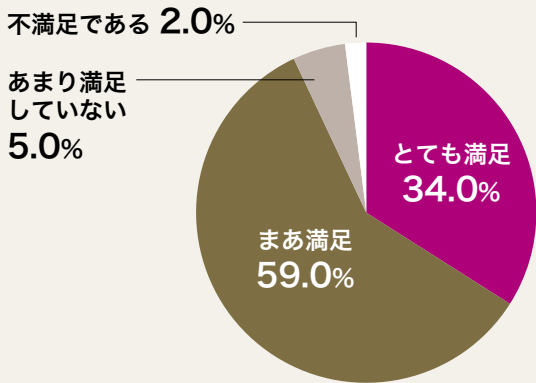
国学院大学では、学部学生10,121人を対象とした「新型コロナウイルス感染症の影響に関するアンケート（全33問）」を2月10日から23日にかけて実施し、733人から回答があった（回答率7.2％）。

本学では前年度も同様のアンケートを実施しており、本学学生であることの満足度は93％（昨年度84.9％）が「とても満足」「まあ満足」と回答し、授業全体の満足度も、86％（同74.7％）が「大変満足」「おおむね満足」と回答するなど大きく改善した。また、仲の良い友人のうち、本学学生の人数を問う質問でも、3人以上の項目を

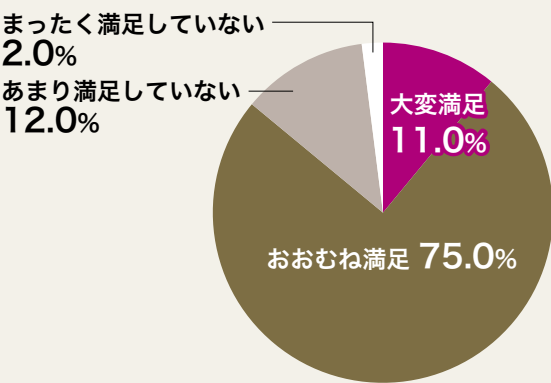
選択した割合が65％（同48.4％）となったほか、コロナ禍での経済的影響を問う質問では、アルバイトの時間や機会の減少などで「収入が減った」とする回答も21％（同40.8％）となり、コロナ禍の影響が低減されている状況が明らかになった。

昨年度調査の結果から、大学への登校日数が多い学生や本学内の友人が多い学生ほど、本学学生であることの満足度や授業への満足度が高くなる傾向が明らかになっている。令和4年度は対面を原則とした方針で授業を実施しており、キャンパスに集い学修や課外活動などで教員や他の学生らと交流する重要性を改めて示す結果となった。

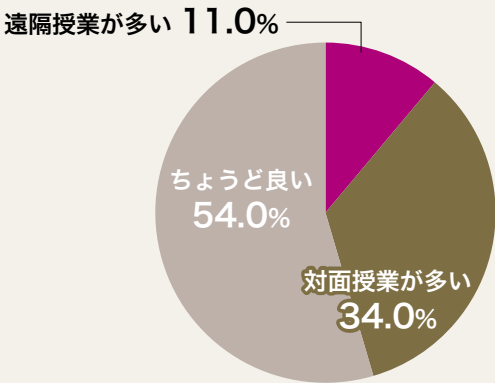
今回のアンケートでは、政府が新型コロナウイルスの感染症法上における位置づけを5類へ移行する5月8日以降のマスク着用についても質問を行った。結果は、「屋内では着ける」が26％、「屋内外問わず着ける」が41％と、マスクを外しての生活には未だ慎重に考えている学生が多いことも明らかになった。本学では、文部科学省の通達により4月1日からキャンパス内でのマスク着用は任意としており、居住地域の感染状況や周囲の混雑などの状況に応じた着脱の判断や、手洗いなど各自でできる感染防止対策の継続を呼びかけている。



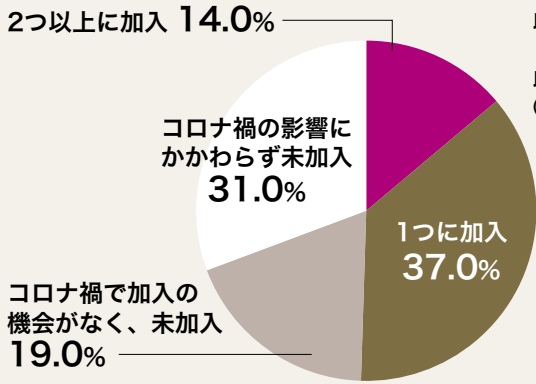
【本学学生であることの満足度】



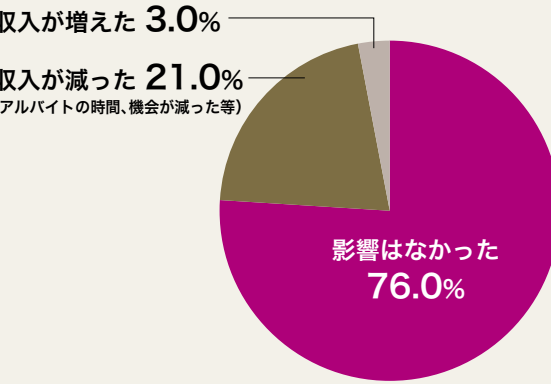
【授業全体の満足度】



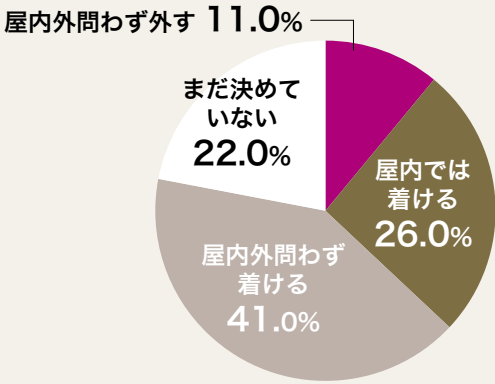
【対面授業の比率】



【学内の部会・サークル等への加入状況】



【コロナ禍による経済的影響】



【5類引き下げ後のマスク着用】

令和5年度 若木育成会「支部の集い」開催日・会場一覧

支部名	日 程	会 場	支部名	日 程	会 場	支部名	日 程	会 場
北海道道北	6月 3 日(土)	アートホテル旭川	神奈川県	7月 9 日(日)	国学院大学渋谷キャンパス	鳥 取 県	7月23日(日)	ホテルモナーク鳥取
北海道道東	7月30日(日)	釧路ロイヤルイン	新潟 県	6月10日(土)	アートホテル新潟駅前	島 根 県	7月22日(土)	ニューウェルシティ出雲
北海道道央	6月 4 日(日)	北海道神宮頓宮	富 山 県	7月22日(土)	A N A クラウンプラザホテル富山	岡 山 県	5月21日(日)	ピュアリティまきび
北海道道南	6月11日(日)	ホテル函館ロイヤルシーサイド	石 川 県	7月 2 日(日)	ホテル金沢	広 島 県	5月20日(土)	広島ガーデンパレス
青 森 県	6月10日(土)	ウェディングプラザアラスカ	福 井 県	7月 1 日(土)	A O S S A	山 口 県	6月25日(日)	山口グランドホテル
岩 手 県	6月18日(日)	マリオス盛岡地域交流センター	山 梨 県	7月16日(日)	ホテル談露館	徳 島 県	6月24日(土)	ザ・グランドパレス徳島
宮 城 県	7月 2 日(日)	ホテルグランテラス仙台国分町	長野県東北信	7月23日(日)	ホテル信濃路	香 川 県	6月 3 日(土)	高松東急R E I ホテル
秋 田 県	6月17日(土)	A N A クラウンプラザホテル秋田	長野県中南信	7月15日(土)	ホテル紅や	愛 媛 県	6月 4 日(日)	東京第一ホテル松山
山 形 県	7月 1 日(土)	山形グランドホテル	岐 阜 県	7月 8 日(土)	サイプレスホテル名古屋駅前	高 知 県	6月25日(日)	高知サンライズホテル
福 島 県	5月28日(日)	郡山ビューホテル	静岡県東部	7月30日(日)	富士山三島東急ホテル	福 岡 県	6月18日(日)	オリエンタルホテル福岡 博多ステーション
茨 城 県	7月 1 日(土)	L'AUBE	静岡県中部	7月29日(土)	中島屋グランドホテル	佐 賀 県	7月22日(土)	ホテルグランデはがくれ
栃 木 県	6月18日(日)	サンプラザ栃木	静岡県西部	7月15日(土)	ホテルクラウンパレス浜松	長 崎 県	6月17日(土)	ホテルフラッグス諫早
群 馬 県	6月11日(日)	ホテルグランビュー高崎	愛 知 県	7月 8 日(土)	サイプレスホテル名古屋駅前	熊 本 県	5月21日(日)	ホテル日航熊本
埼 玉 県	5月28日(日)	国学院大学渋谷キャンパス	三 重 県	7月 9 日(日)	ホテルグリーンパーク津	大 分 県	7月16日(日)	レンブラントホテル大分
千 葉 県	6月11日(日)	国学院大学渋谷キャンパス	滋賀県・京都府	7月 9 日(日)	ホテルグランヴィア京都	宮 崎 県	7月15日(土)	宮崎観光ホテル
東京都第一	6月 4 日(日)	国学院大学渋谷キャンパス	大 阪 府	5月21日(日)	あべのハルカス 会議室23 F	鹿児島県	5月20日(土)	ホテル・レクストン鹿児島
東京都第二	6月25日(日)	国学院大学渋谷キャンパス	兵 庫 県	7月 8 日(土)	ホテルサンルートソプラ神戸	沖 縄 県	6月17日(土)	パシフィックホテル沖縄
東京都第三	6月25日(日)	国学院大学渋谷キャンパス	奈 良 県	5月21日(日)	あべのハルカス 会議室23 F	※上記は予定です。最新情報は若木育成会HPでご確認ください		
東京都第四	6月 4 日(日)	国学院大学渋谷キャンパス	和歌山県	5月20日(土)	和歌山県民文化会館			

柔道部

国際ジュニア大会 中村選手が優勝

国内大会でも院友・学生が健闘

国学院大学柔道部の6選手が3月26日、ドイツ・ブレーメンで開催された国際大会に出場し、男子90kg級の中村俊太選手（健体2＝当時。以下同）が優勝、同73kg級の後藤颯太選手（健体1）が2位、同60kg級の宮部真臣選手（観まち1）が3位となる活躍を見せた。同部からは73kg級で阿久津友春選手（法2）、90kg級で小林開道選手（法1）、100kg級で清水雄護選手（経1）も世界の舞台に挑んだ。同大会は、全日本ジュニア強化選手が世界への登竜門として参加する大規模な国際ジュニア大会で21カ国693人が参加した。中村選手は、1回戦から決勝までの6試合全てで他国の選手を寄せ付けずに圧勝した。

国内大会では、全日本選抜柔道体重別選手権大会が4月1、2日に福岡国際センターで開催され、男子66kg級で羽田野啓太選手（健体3）が社会人選手を相手に3位と奮闘。優勝は院友の藤阪泰恒選手（平31卒・127期健体、パーク24）だった。

この大会は、前年1年間の実績により全国から選抜された各階級8人が



左から宮部、後藤、中村、小林、清水、阿久津選手（同部提供）

出場し日本一を決するもの。男子66kg級では、8人中4人を本学関係者が占め、相田勇司選手（令4卒・130期法、ALSOK）も3位となるなど軽量級を得意とする同部が存在感を見せた。同90kg級には押領司龍星選手（令5卒・131期経営、京葉ガス）も出場。惜しくも1回戦敗退となったものの、社会人戦デビューを果たした。

硬式野球部

東都野球開幕

開会式で吉川主将が選手宣誓



選手宣誓に立つ吉川主将(中央)

東都大学野球春季1部リーグが4月1日、ナゴヤ球場（名古屋市）で開幕を迎えた。国学院大学硬式野球部は日本大学と対戦し1勝2敗で惜しくも敗れた。

開会式では、昨年度秋リーグを制覇した同部が優勝旗を返還。吉川育真主将（経4）がワールド・ベースボール・クラシックで優勝した日本代表の活躍にふれ「侍ジャパンに負けたくない、感動を伝えられるプレーをしたい」と選手宣誓を行った。

続く日本大学との第1戦では、三回表に土山翔生選手（経営3）、中西流空選手（経2）の安打で1－0と先制する。

八回表にも神里陸選手（神3）の二塁打、立花祥希選手（健体2）の左適時打などで4点を加え、5－0と突き放した。投げては先発の武内夏暉投手（健体4）、2番手の坂口翔颯投手（経営3）が相手打線を0点に抑える好投を見せ、開幕初戦を制した。4月3日の第2戦では日本大学に0－5とリードを奪われるなか、同部は七回裏に3点、八回裏に1点を返し4－5と反撃するも一歩及ばず、4－6で敗れた。明治神宮球場に舞台を戻し行われた4月6日の第3戦は、3－4で惜しくも敗れた。同部は第2週以降、巻き返しの連覇を目指す。

i

インフォダイジエスト

	… 在学生		… 保護者		… 卒業生		… 一般		… 受験生
内 容	日 に ち	時 間	場 所	対 象	定 員	料 金	申 込	問 合	セ

大学からのお知らせ

令和5年度学費等納付金について

内令和5年度学費等納付金（前期）口座振替日は、6月26日(月)です。詳細は4月下旬に、保証人（大学院生は本人）へお送りする「学費等納付金に関する通知」や大学HPをご確認ください。

問▶経理課（☎03・5466・0115）
▶学生生活課（☎03・5466・0145）
▶たまプラーザ事務課（☎045・904・7700）
▶大学院事務課（☎03・5466・0142）

健康診断の結果および
健康診断証明書の発行について

内今年度の健康診断の結果は6月下旬以降、K-SMAPY IIの学籍情報照会で確認できます。各種実習、就職活動などで使用する健康診断証明書は、5月10日(木)から証明書自動発行機で発行可能です（外部医療機関で受診の場合は発行不可）。

※再検査や保健室来室を案内された方は、保健室にお越しください
問保健室（☎03・5466・0148）

証明書はコンビニ発行を

内国学院大学ではコンビニエンスストアを利用した証明書の発行を行っています。

①「証明書発行サービス」▷必要な証明書をオンラインで申請、全国のセブンーイレブン、ファミリーマート、ローソンの各店舗でマルチコピー機を利用し、発行できます

②「オンライン申請郵送サービス」▷必要な証明書の申請と決済の後、郵送でお送りします（別途、郵送料が必要）。原則、在学生は利用できません
※決済はクレジットカード、コンビニでの現金支払い
※卒業年度や在学時の所属、証明書の種類により利用できる範囲が異なります。詳細は大学HPで確認してください
問教務課、たまプラーザ事務課

イベント

「支部の集い」にご出席を

内本学の学部・専攻科・別科在学生（外国人留学生を除く）の保証人（ご父母ら）で組織される若木育成会では、「支部の集い」を5月中旬から開催します。本学の教職員が「大学の現状」についての報告と説明を行い、お子様の学修状況などについて個別にご相談いただけます。新入生の保証人（ご父母など）の皆さまにとっては本学をお知りいただく機会となりますので、ぜひご出席ください。

※今後の社会情勢により、開催については変更する場合があります
日・場別表参照
申開催1ヶ月前ごろに案内状をお送りしますので、若木育成会HP＝二次元コード＝からお申し込みください。
問校友課（☎03・5466・0131）



K:DNA——創立141年目を迎えた国学院大学の**遺伝子**…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

令和5年度 学部・専攻科・別科入学式

針本学長「知の探究 揺るがず」

令和5年度の学部、神道学専攻科、別科神道専修の入学式が4月2日、グランドプリンスホテル新高輪（東京都港区）で挙行され、春の陽光が注ぐなか、真新しいスーツに身を包んだ今年度の新入生2737人が学生生活の門出の日を迎えた。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策として参列は新入生本人に限定し、校歌はマスクを着用して斉唱する方式が取られた。針本正行学長は新入生に向けた告辞で、「大学は今までにない知を獲得する場。全ての教職員が応援していく」と強調した＝**要旨別掲**。

来賓祝辞、各学部長の新入生歓迎の言葉に続き、新入生の各学部代表が宣誓し、仲間と切磋琢磨しながら、それぞれの目標に向かって勉学に励み、実り豊かな4年間にすると誓った。



新入生、夢と希望を膨らませ輝く未来へ第一歩

6学部、神道学専攻科、別科神道専修の入学式で、新入生はそれぞれの夢の実現に向け、輝かしい未来への第一歩を踏み出した。式典は学部ごとに3回に分けて挙行され、父母らにはその様子がライブ配信された。会場では、全学応援団が団旗を掲げたのはじめ、青葉雅楽会、管弦楽団、吹奏楽部、フォイエル・コール混声合唱団の各部会が演奏や合唱で新入生を歓迎した。

学長告辞の後、在学生の保証人（父母ら）でつくる若木育成会の森伸一会長は「卒業後により高い次元で仕事をするためには何を学ばよいかを早い段階から考え、取り組んでもらいたい」とあいさつ。次いで星野広和・経済学部長、西村幸夫・観光まちづくり学部長、黒崎浩行・神道文化学部長、荻田真司・法学部長、矢部健太郎・文学部長、太田直之・人間開発学部長がそれぞれ大学で学ぶことの意義などを説き、歓迎の言葉を述べた。続く新入生代表宣誓では、経済学部の中島謙心さん（経）、観光まちづくり学部の中島謙心さん、文学部の滝島萌菜さん（外文）、神道文化学部の亀田幸輝さん、法学部の白川波奈さん、人間開発学部の桜井俊輔さん（健体）がそれぞれの学びへの思いを交え、懸命に勉学に励むと力強く誓った。

今年度の新入生はコロナ禍で不自由な高校生活を余儀なくされた世代。それだけに式典会場ロビーは、学部の仲間とさっそく夢を語り合うなどの声に

満ち溢れた。

本学の特長的なカリキュラムを生かし、特定分野を探究したいと期待感を高めている新入生は多い。水野言里さん（日文）は「近代文学を中心に日本文学への知識を深め、卒業後は文学に関する職に就きたい」と将来を見据える。藤悠季乃さん（中文）は「高校で漢文を学んだのを機に中国文学への興味を深め、この学科を選んだ」と話す。観光まちづくり

学部2期生にあたる菅原和駿さん（観まち）も「好きな観光関係の知識をしっかりと身に付け、関連業界に就職する」とやはり卒業後の進路が明確だ。

神職を目指している新入生も目立つ。岡隆一さん（神文）は「専門的な職業だけに多面的な学びがしたい」、宮本恵さん（同）は「社会勉強も大切だと思う」、佐藤千杜世さん（同）は「祖父も父も神職。社会への奉仕がしたい」、手塚潮佳さん（同）は「実家の神社を父と二人三脚で守っていきたい」とそれぞれ思いを語った。

針本学長告辞要旨

学び方を自問せよ

コロナ禍はデジタル化を加速させ、人はこのような社会状況にいかに対峙し乗り越えていくのかなどの課題を突きつけた。学術研究でも「文章作成AI」が公表されたことで、AIに学術論文が書けるのかという問題が提起されている。予想を超えた勢いで進化するAIは、人間の内にある豊かな可能性を呼び起こすものと受け止めたい。

いかなる社会状況になろうとも、大学は既存の「知」に挑み、自分の知を日々更新し、今までにない「知」を獲得する場であることに変わりはない。課題の学修、研究では、資料分析に基づいた独自見解の提起が求められる。そのた

めにも意見の論理的な伝達方法とは、資料分析の具体策とは、既存の学問知を疑うとはどういうことなのかをさまざまな授業を通して不断に自身の心に問いかけてほしい。国学者・本居宣長は「自分自身が自分の心に向き合い、何を学びたいのか、何を知りたいのかと問いかけ、自らの思いに身をゆだねることが大事」と説いた。「学ぶこと」は無限の可能性を持った皆さんにとって、生涯にわたって紡ぎ出されていく「知」を醸成する源となるものだ。ともに学びの道を歩いて行こう。



大学院入学式

針本学長「新たな学問知の構築を」



大学院の令和5年度入学式は4月1日、渋谷キャンパス百周年記念講堂で挙行された。当日は役教職員が見守る中、新入生代表が宣誓し、新入生108人が研究者として新たな一歩を踏み出した。

針本正行学長は告辞で、「コロナ禍でAIなど情報技術の革新が一層進み、社会も大きく変化したなか、人間の知の内実が問われている。既存の知に敬意を払いながらも、新たな知を獲得してほしい」と呼びかけた。佐藤長門大学院委員長は式辞で「大学院での研究は、わずかな違いを気にか

け、探究するものだ。神は細部に宿るというが、小さな違いを大事にする繊細さと通説に果敢に挑む大胆さを持って研究に取り組んでほしい」とエールを送った。

これに対し、新入生を代表して出口颯涼さん（博後文＝写真左）は「研究に取り組む者としての自覚を持つとともに、研究活動等を通して社会を生きていく能力と社会に貢献できる力を高められるよう、懸命に過ごしたい」と述べ、大学院での飛躍を誓った。